

二代教授

中川 小四郎 教授

大正10年(1921)―大正12年(1923)



三代教授

大森 大亮 教授

大正12年(1923)―大正13年(1924)



四代教授

皆見 省吾 教授

大正13年(1924)―昭和6年(1931)



1893年11月1日広島市生まれ。1918年、東京帝国大学（現東京大学）医学部卒業。1922年、文部省在外研究員として渡欧（2年間）。1924年、岡山医科大学（岡山大学医学部の前身）皮膚科教授。1929年、**第29回日本皮膚科学会を岡山で主催**。1931年、九州帝国大学（九州大学の前身）皮膚科教授。1933年、雑誌『皮膚と泌尿』を発刊。1939年、第39回日本皮膚科学会を主催。1948年、九州大学教授退官。福岡市で開業。定年前の退官で、大学内の紛争に嫌気がさしたことと、経済的な問題が大きかったという。福岡市内に財団法人皆見梅毒血清研究所と付属医院を開設した。病院は繁盛し患者は多かった。1950年、九州大学名誉教授の称号を与えられる。1954年、若い皮膚科研究者育成のため「**皆見賞**」を創設。日本皮膚科学会よりその年の最も優秀な研究論文に対して贈られる名誉ある賞である。1966年、日本医師会最高優功賞を受賞。1975年9月6日死去。従三位・勲三等に叙せられる。

留学のため、日本を出航する直前、恩師で東京大学皮膚科教授の土肥慶蔵より『世界の梅毒史』のドイツ語への翻訳を命じられ、航海中に翻訳し、ベルリン到着後に完成した。ベルリン・フリードリヒスハイน์市立病院病理部のPick教授の下で病理学を学ぶ。その仕事は“Ueber Nierenveraenderungen nach Vershuettung” Seigo Minami, として Virchows Archivに掲載されたが、これは第一次世界大戦の戦傷の腎不全による死者の病理学的検討であり、世界で最初の**挫滅症候群（クラッシュ・シンドローム）**の報告である。

Wikipediaより抜粋

写真は岡山大学医学部泌尿器科学教室のご厚意による